

挑戦

福島県須賀川市立西袋中学校

三年 眞壁 靖也

僕は自分に自信がなかった。小学校の時から野球をやっていた。小学校の時から自分に自信を持って、挑戦することから逃げていた。だが中学校に入り、野球部の前監督の恩師が僕に「チカラ」をくれた。それは、挑戦する「チカラ」だ。野球のプレーで、僕は守備の要であるショートを守らせてもらった。だが僕はエラーをしたらどうしよう、迷惑をかけたらどうしようという不安の気持ちでいっぱいだった。それはプレーにも表われた。足が止まってしまいエラーをしたり、自分が取るべきボールをまかせてしまったりすることが多くあった。そんな時ある出来事が僕を変えてくれた。県外の大会へ参加した時、ツーアウト三塁とピンチの時、僕に打球が飛んできた。僕は送球ミスをしてしまい決勝点となり僕達は負けてしまい準優勝で終わってしまった。打球が飛んできた時に、前に出て取ることを恐れた。弾いてしまったらどうしようと考え足を動かさず取り、投げる時にも暴投してしまっただろうしやうなどと考えミスをしてしまった。僕はとても後悔した。あの時前に出ていたら、しっかり投げていればなどと考え悔やんだ。そんな時に監督から声をかけられた。

「どうしてミスをしてしまったんだ。」

僕はその時本音を明かした。

「自分に自信がなかったからです。」

と答えると

「自分に自信がないのは挑戦しないから自信がつかないんだ。挑戦しないことには何も始まらない。失敗は誰にでもある。だが挑戦しての失敗から得るものはあるが、何もせずに生まれた失敗から得るものはない。」

と言われ僕は感銘を受けた。それから僕は自分のプレーに自信を持てるようになった。挑戦してミスをしたら、同じミスをしないうちに自主練習をした。今まで出来なかったことが練習することで出来るようになるのが楽しく自分に自信を持つことが出来た。それはプレーに表われ、前に出て取ることや自信を持って送球することが出来たことを僕はとてもうれしく思った。自信を持てるようになり僕は、生き生きとプレーすることが出来るようになった。その時は親からも「最近楽しそうにやっているね。」と言われた。僕は自信を持つだけで人はこんなに変わるのかと思った。それを後輩にも伝えたいと思った。今は監督だった恩師がいないので伝えるべきだとも思った。チーム内に中学校から野球を始めた後輩が二人いた。そしてその二人も二年生になり、さらに一年生が入ってきた。一年生は十一人中十人が野球やソフトボールの経験者だと聞いて不安でいっぱいだと僕達三年生に打ち明けてくれた。そんな時僕は、前監督の恩師のあの言葉を二人にも教えた。そうすると二人は徐々にだが自分に自信を持つようになった。僕はその時はとてもうれしかった。僕が伝えたことが役に立った時はとてもうれしかった。

恩師が教えてくれたことは、野球だけではなく日

常生活でも自分に自信がついたと分かることがあった。

今まで僕は人前で話すことや自分の意見を発表することが苦手だった。スピーチなども考えていたことが人前に立つと頭が真っ白になり話すことが出来なかった。授業などでも自分の意見に自信がなくて挙手できなかったり間違えることを怖がっていたが、恩師の言葉を受けてから少しずつだが人前で話すことが出来るようになった。今では野球部での発表は堂々と話すことが出来るようになった。授業中は徐々にだが挙手するようになった。間違えてしまっても恥ずかしがらずどうして間違えたか学ぼうとするようになった。

恩師が教えてくれたあの言葉のおかげで、今まで出来なかったことに挑戦するだけではなく、新しいことにも挑戦することが出来るようになった。次なるステージの高校野球でも、自信を持ってプレーし意見をしっかりと発表したいと思う。